

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

2007年度の再編によって、3専攻14領域（博士課程後期課程は13領域）を設置し、入学定員を専攻ごとに改めた。3専攻の入学定員は、博士課程前期課程が文化歴史学専攻22人、総合心理学専攻20人、文学言語学専攻22人、博士課程後期課程が文化歴史学専攻7人、総合心理学専攻6人、文学言語学専攻7人である。これにより、領域間での入学者数の調整が可能となり、融通性のある定員確保ができるようになった。また、2007年度の再編を契機に、2006年度より5月と11月に学部生を対象に大学院入試説明会を実施し、学生の確保に努めている。

入試問題の適切性については、これまで専門基礎科目においては受験者の研究計画を問うような問題が出題されることがあったが、事前に答案を予測し得るものであることから、2007年度入試からは同傾向の問題をできるだけ避けるように暫定領域代表者会議を通じて各領域に要請し、改善することができた。

なお、専門科目や専門外国語においては、各領域特有の専門性が問われるため、一律にその適正化を図ることは難しい。引き続き、大学院問題検討委員会において検討する。

科目等履修生の受け入れについては、まだ受け入れには至っていない。今後も検討を続ける。

学内第三者評価

定員確保や入試問題について、適正化が進められていると評価できる。入試問題の適切性についても適切な対応が進んでいる。